

令和3年度市民提案型市民協働事業 第1回住民懇談会報告書
—こまえ正吉苑エリア—

- 1 日時 : 令和3年6月20日(日)
 - ① こどもの部 13時00分から14時00分まで
 - ② おとなの部 14時30分から16時30分まで
- 2 場所 : 野川のえんがわ こまち
- 3 WGメンバー出席者 : 野村 淳一郎、佐藤 阿覧、矢成 光生、岸 真、大山 貴史、
梶川 朋
- 4 地域住民参加者 : ① こどもの部 7名
② おとなの部 5名 (+WGメンバー6名)
- 5-① 懇談会内容 (こどもの部)
 1. ぼく・わたしのまちのいばしょ
 - ・自宅、学校、児童館、KOKOA
 - ・公園、野川、野川地域センター、市民体育館、市民グラウンド
 - ・習い事、こまち
 2. いごこちのいいばしょってなんだろう
 - ・自由 (4年生・男児)
 - ・自由が良い (3年生・男児 t)
 - ・規則がありすぎると嫌なんだよね (4年生・女児)
 - ・(そこにいる) みんなを知っていること。(みんなのできる遊びで) 一緒に遊べる人がいること (3年生・男児 k)
 - ・けんかばかりのところは嫌 (4年生・男児)
 - ・学校は学校だから嫌。全体的に嫌だわ。休み時間も嫌い (6年生・男児 a)
 - ・学校が6時間の時は面倒だけど、中休みと昼休みは大好き (3年生・男児 t)
 - ・学校の勉強が嫌だ (3年生・男児 k)
 - ・逆に学校がなかったら友だちとも会えないし、遊ぶ約束もできない。そっちのほうが嫌だな (4年生・女児)
 - ・(こどもが過ごせる場所として) 知らないから行かない場所もある (3年生・男児 t)
 - ・楽しい場所が好き。遊ぶこと (4年生・男児)
 - ・夏に暑すぎる所は居心地が悪い。真冬でも公園は行くけど、真夏は嫌あまり行かないかな (6年生・男児 n)
 - ・友だちがいること。おもしろい遊びができること。一人でいるよりみんなでいるほうが楽しい (6年生・男児 n)
 - ・一人でいるほうが楽だから、一人で過ごせる場所もあると良い (6年生・男児 a)
 - ・(そこにいる大人が) 厳しすぎず甘すぎないところ。これはないでしょってことをきちんと注意してくれること (6年生・男児 n)
 - ・(大人が) 甘すぎると事故が起こる (4年生・女児)
 - ・いつも甘やかされると厳しい所に行った時に怒られちゃう (3年生・男児 t)

5-② 懇談会内容（おとなの部）

1. 私にとっての地域の居場所

- ・ K.Base などのカフェ、野川を散歩（WG メンバーO：30代・東野川在住・狛江在住5年以内）
- ・ 多摩川を散歩（市民参加者H：50代・和泉本町在住・狛江在住30年以上）
- ・ 自然の多いところ、カフェやバー（WG メンバーN：30代・和泉本町在勤）
- ・ 家庭、職場、おもちゃ病院、むいから民家園（市民参加者01：60代・東野川在勤・狛江在住30年以上）
- ・ 友人と集まる狛江通りのバーミヤン（WG メンバーS：20代・和泉本町在住・狛江在住20年以上）
- ・ 自分のアトリエ（WG メンバーY：50代・和泉本町在住・狛江在住10年以上）
- ・ 多摩川（市民参加者S1：40代・和泉本町在住・狛江在住10年以上）
- ・ 職場、ハイタウンの花屋 Breezeway（市民参加者S2：40代・西野川在勤）
- ・ 野川の谷戸橋あたり、多摩川の五本松あたり（市民参加者02：50代・西野川在住・狛江在住10年以上）
- ・ 職場、多摩川の五本松あたり（WG メンバーK）
- ・ 小さい頃は、多摩川が決壊して危ないと言われていて、小学校が五小だったので野川で遊んでいた（市民参加者H）
- ・ こどもが小さい頃はとんぼ公園によく一緒に行っていた（市民参加者S1）
- ・ こどもが生まれる前は狛江以外の街ですごすことが多かった。飲み会は下北沢とか（市民参加者02）
- ・ 狛江には自慢できる飲食店が少ない。街の外に出ざるを得ない（市民参加者H）
- ・ ここ数年は市役所周辺に新しいカフェができたり少しずつ変わってきているところもある（市民参加者S1）
- ・ こどもができて親仲間とつながると地域の情報がいろいろと入ってくるが、それまではあまり情報がなかった（市民参加者02）
- ・ 中高生がどういうところを居場所としているのか気になる。ボール遊びなども禁止されている（市民参加者02）
- ・ 庶民的なお店がなくなっていくのが寂しい。その代わり新しいお店ができていることも感じる（WG メンバーY）
- ・ 小学校の低学年の頃は公園に集まっていた。高学年ぐらいになるとイトーヨーカドーのフードコートやゲームセンター。中学生になると友だちの家に行くことが多くなった。高校生になると行動範囲が狛江の外に広がった（WG メンバーS）
- ・ 昔は学校のすぐ横に文房具や駄菓子を売っているお店があったが、代替わりで閉店してチェーン店が増えていった。今はまた新しい風が吹いていて、小さなお店でも自分らしく地域に根差してやりたいという人が増えている気がする。小さな街の魅力はそこ。あそこのあの人と直につながれることが強み（市民参加者01）
- ・ お互いのことは知らないほうが気楽という「マンション族」の人も狛江にはいる。

そのへんが課題ではある（市民参加者 02）

2. 地域の居場所を広げるために

- ・いまコロナ禍で介護予防の体操教室を公園や野川沿いで開催することが増えた。そこで高齢者と子どもが関わったり、赤ちゃん連れのママさんとなつながつたりすることがある。公園ってわりとみんなが集まるひとつの場所になるんだなということを感じた（市民参加者 S2）
- ・のびのび公園で映写会をやっていた。神社のお祭りとかもそうだが、人が集まれるイベントは必要。活発な子どもたちにはボールが使える公園があると近場にあると良い。富永農園さんにブルーベリー園を子どもたちに開放してもらうことなどできないだろうか。おやじの会ではバーベキューのために開放してもらったりした（市民参加者 S1）
- ・いまの子どもたちは習い事など放課後も「結果」を求められる。いまこの時間自分がやりたいことを思う存分するということがいまの子どもたちには保障されていない。あそび場も公園も禁止がいっぱい。子どもたちが思いきり泥んこあそびができる場所がほしい。羽根木のプレーパークのような。そしてそれを見守る大人がいること。「居場所」には場所だけでなく人も必要（市民参加者 01）
- ・子育ては家庭だけが担うものではない。私たちが育てているのは地域を担い日本の社会を担ってくれる子どもたち。地域のみinnで次の時代を担う人材を育てる、だからコミュニティが大事というふうに見ないとお母さんたちは本当に追い込まれている。子どもが大事にされる街であってほしい（市民参加者 01）
- ・ゴルフの打ちっぱなしを子どもたちのために開放できないか（市民参加者 S1）
- ・（個人宅の活用について）高齢者は、自分が大変な状況になってからだと自分はこの後どうしようということまで頭がいっぱいになってしまっていて、自分が住んできた家をどうしようということは考えられない人がほとんどだと思う。お元気なうちに自分が老人ホームに入ったり他界した後に自宅をどうするかを考えられる仕組みがあると良い（市民参加者 S2）
- ・30年ぐらい前に二世帯住宅が流行ったが、30年経ったいまも二世帯で住んでいるという人は多くないのではないか。岩戸南の「つむぐ食堂」は、二世帯住宅のご両親が亡くなって、一世帯分を食堂として改築して営業を始めた。そのように元々二世帯住宅だったお宅の空きスペースをリノベーションしたり地域に開放するという取り組みはおもしろいのではないか（市民参加者 02）
- ・高齢者だけで住んでいる方々は多い。使わない部屋を子どもの学習支援に開放するとか考えられるのではないか（市民参加者 02）
- ・地域でコミュニケーションが不足しているのかなと感じることがある。隣近所でも転入してきた方を把握できていなかったりする。もっとお互いのことをしつていけたら良い（市民参加者 H）

地球。居場所。可能性。

【第七小学校があった場所に整備された】で、「緑の丘児童遊園」という名前は、【第七小学校の子どもたちが考えました。】園には、人工芝で出来た緑の丘（緑の形をしたユニークな滑り台がある）のクライム遊具などがあります。丘児童遊園は、開園時間が右記のとおりです。

開園時間
4月から9月まで 9時～17時
10月から3月まで 9時～16時

課題

06 西野
長さ約100mの人工の川から水を引いた用水が流れていました。昭和の昔がな一日コトコンコト：割を焼いていました。川を遊んだ親子の方々

前原公園 無印

から市民団体と市と一緒に、自然環境を巧みに取り入れた機能を併せ持っています。多く芝生、池や花壇などもあり、お弁当採集や草花の観察をしたりできます。

自由の遊べる場所がほしい!!

子どもが遊べる場所

課題

- ・子どもの数が増える。家や学校で遊ぶ場所が足りなくなる。
- ・公園の整備が難しい。自然環境を大切にしたい。
- ・公園の整備は、思い通りにできない。子どもが自由に遊べる場所を確保したい。
- ・公園の整備は、思い通りにできない。子どもが自由に遊べる場所を確保したい。

01 八幡通り

02 西野川樹林地

03 文 粕江第四中

04 こま久保二正古井

08 粕江保育園

09 こまえ 野川園

11 野川園

13 文 粕江第五小

14 東野川市民テニスコート

15 子遊切畑

16 文 粕江第四中

17 東野川市民テニスコート

18 文 粕江第五小

19 東野川学童保育所

20 三島保育園

21 粕江地区センター

22 市民グラウンド

24 市民グラウンド

25 三島保育園

前原公園 (Image of a child playing)

自由の遊べる場所がほしい!!

子どもが遊べる場所

課題

- ・子どもの数が増える。家や学校で遊ぶ場所が足りなくなる。
- ・公園の整備が難しい。自然環境を大切にしたい。
- ・公園の整備は、思い通りにできない。子どもが自由に遊べる場所を確保したい。
- ・公園の整備は、思い通りにできない。子どもが自由に遊べる場所を確保したい。

6 参加者アンケート（おとなの部）：回答数 4件

6-1. 参加者の年代

40代：2人、50代：1人、60代：1人

6-2. 参加者の居住/勤務地域

和泉本町：1人、西野川：2人、東野川：1人

6-3. 感想（自由記述）

- ・子どもたちを大切にする街になっていくことを心から願っています。
- ・地域の方々がいらっしゃっていて色々な話が聞けて今後動くヒントになりそうです。
- ・狛江市を良くする意識の高いメンバーの方が非常に多く、楽しい集いでした。「人とのつながり」、これがキーワードと思いました。具体的にどうしていくか、ロードマップの構築大変と思いますが、応援したいと思いました。

以上

令和3年度市民提案型市民協働事業 第2回住民懇談会報告書
—あいとびあエリア—

- 1 日時 : 令和3年11月21日(日)
 - ① こどもの部 13時00分から14時00分まで
 - ② おとなの部 14時30分から16時30分まで
- 2 場所 : よしこさん家
- 3 WGメンバー出席者 : 佐藤葉月、梶川 朋
- 4 地域住民参加者 : ① こどもの部 参加者なし
② おとなの部 7名
- 5-① 懇談会内容(おとなの部)
 1. 私にとっての地域の居場所
 - ・ あいとびあセンターが職場なのでその隣の西河原公園(市民参加者A・市内在勤)
 - ・ 地域の雑貨屋さん、市内のカフェ(市民参加者B・市内在勤)
 - ・ 市役所にずっといるため他のところが思いつかなかった(WG参加者A・市内在勤)
 - ・ 野川沿いの散歩、近隣の家でのガーデニングを見ながら散歩、市民センターで月に1回仲間と集まる機会、図書館(市民参加者C・市内在住)
 - ・ 古民家園で孫とあそぶこと(市民参加者D・市内在住)
 - ・ 自分が主催している保護者の会、カレーショップメイ(市民参加者E・市内在住)
 - ・ 多摩川の土手、前原公園(市民参加者F・市内在住)
 - ・ しばらく狛江から離れていて戻ってきたら街並みが大きく変わっていた。ホッとできる居場所を探しているがまだ見つからない(市民参加者G・市内在住)
 - [意見交換]
 - ・ 和泉多摩川商店街のホワイトパレットは空き家になっているので何かに活用できると良い。
 - ・ ガーデニングがきれいなお宅など花や草木は人が足を止めるきっかけになる。
 - ・ 自然の豊かさは狛江の魅力。少なくともはなつたがまだまだ残っている。守らないと。
 - ・ 昔は伊豆見神社などお宮さんの境内とかが人が集まる場所だった。伊豆見神社には旅芸人が来て地域の皆で見に行ったりした。地域の祭りなども人が集まる機会だった。
 - ・ 泉龍寺の隣の弁財天池はそこだけ山の中にいるようで気持ちが和む。
 - ・ 近年住宅が増え空き地や緑地がどんどん少なくなっている。相続で畑が宅地になるなどしている。代々続いた農地がなくなってしまうことは残念。
 2. 地域の居場所を広げるために(あいとびあエリア)
 - ・ 岩戸の教会でこども食堂を始めるところがある。神社や教会のような宗教施設が現代でも地域の居場所になる可能性を持っている。
 - ・ 「おとな食堂」をやりたいと考えている。地域のおとなが気軽におしゃべりできる場があると良い。
 - ・ こども食堂や食を囲んで居場所となっていた場所がコロナ禍で居場所としての機能

を失っている現実もある。

- ・カレーショップメイではコンサートをしたり貸切で勉強会や展示販売会をさせてもらったこともある。いろいろな用途で地域に開かれたカフェになっている。
- ・古くからある老舗の商店が居場所になると良いと思っている。
- ・元々酒屋で10年ぐらい閉めていた店舗が現在多摩川住宅の「こまほっとシルバー相談室」になっている。空き店舗の活用のひとつ。
- ・空き家の活用と言っても維持していくことが難しい。手を入れないとまず活用を始められないし、その後もメンテナンスが必要になる。
- ・近隣で空き家になっていることがわかっている物件はいくつかあるが、市民としてはオーナーへのアプローチの方法がない。ずっと空き家であることにはそれなりの理由があるはずで、オーナーとしてはそこを活用してくれというのは大きなお世話なのかもしれないが。
- ・これからは一人暮らしの高齢者がますます増えていくと考えられる。孤独を感じる方も増えると思えるので、仰々しい場ではなくても「まちなえんがわ」のように気軽に立ち寄り誰かに愚痴や本音をポロッと話すことができる場があると良い。
- ・地域の居場所を開いたときに、毎日来て居座ってしまう人もいるかもしれない。そういうトラブルが起きたときに行政などがサポートしてあげることが必要。
- ・商売や支援者としてではなく、「ボランティア」で地域の活動に取り組むときに居場所を利用する人との距離感が課題となる。
- ・あいとびあ前の通りから多摩川の五本松に出るところにベンチがあり、そこはいつも誰かが座りおしゃべりをしている場所になっている。人が行き来する場所にベンチがひとつあるだけで、そこが「えんがわ」のような気軽な交流の場になることもある。
- ・場所の確保も大事だが、そこを維持する人材を確保することが大切。心ある人がたくさんいて、その人たちに合った人たちがまた寄って来て、そのひとつひとつのカラーがいろいろな居場所になっていくことが重要な気がする。中心になっている人のカラーが居場所の雰囲気をつくりだすが、その多様性が良い。
- ・居場所をつくる人材を支えるためにも、居場所づくりに取り組む人のネットワークは必要。同時に、多様な人材がいるなかでネットワークには加わず独自に活動するという人もいるかもしれない。それもそれで良いのではないか。

6 参加者アンケート（おとなの部）： 回答数 7件

6-1. 参加者の年代

30代：1人、40代：1人、50代：3人、60代：2人

6-2. 参加者の居住/勤務地域

中和泉：2人、元和泉：1人、東和泉：3人、その他（和泉本町）：1人

6-3. 狛江に「まちの縁側」と呼べる小さな居場所を増やすアイデア

- ・横のつながりが作れて居場所ならではの悩みなどを相談し合えると良い。
- ・「楽しい会」をすることで人と人のつながりを増やし、そこから人と場所を生み出していく。
- ・地区の人たちとお話の機会を増やして同じような考えの人とつながって、相談。役所も含めて、少しずつでも多くしていきたい。
- ・空き家を活用していくことはハードルが高い面もあり、住まわれている方が少しの時間、場所を開放したり、お寺や神社、教会などの施設の利用もおもしろいと感じています。多摩川沿いのベンチもおもしろいと思いました。
- ・これと言ったアイデアが浮かびません。
- ・人材確保？

6-4. 感想（自由記述）

- ・初めてお会いする方々と交流することが出来て視野が広がる機会になりました。
- ・とても勉強になりました。
- ・よしこさん家に初めて来られてよかったです。また来てみたいです。こまちにも行ってみたいです。
- ・いろんな方のお話が聞けて、よかった。
- ・皆さんの色々なご意見を聴くことができよかったです。
- ・空き家の事はいろいろと考えないといけないけれど、持ち主と周りで見ている人とは立場が違うという事だと思います。
- ・たくさんの居場所があることを知りました。まだまだ優しい人が世の中にいらっしゃるのだと感じました。難しいことですが、たくさんの居場所ができるといいと思います。

以上

令和3年度市民提案型市民協働事業 第3回住民懇談会報告書
—こまえ苑エリア—

- 1 日時 : 令和4年2月12日(土)
- ① こどもの部 13時00分から14時00分まで
② おとなの部 14時30分から16時30分まで
- 2 場所 : 岩戸地域センター 会議室C
- 3 WGメンバー出席者 : 岸真、野村淳一郎、梶川 朋
- 4 地域住民参加者 : ① こどもの部 参加者なし
② おとなの部 8名
- 5-① 懇談会内容(おとなの部)
1. 私にとっての地域の居場所
- ・喜多見駅の裏の小さなバーに趣味の合う人が多く集まっていて、居場所になっている(市民参加者A・市内在住)
 - ・実家が遠方で子育てを夫婦で頑張らないといけないというときによしこさん家で開催されている「あかちゃんの輪」にとっても居心地の良さを感じ、助けられた。市内のカフェ、近くだと岩戸児童センターにもお世話になっていて、少しずつ狛江の居場所が最近増えてきたかなと思っている(市民参加者B・市内在住)。
 - ・多摩川の「水辺の楽校」に先日参加したらとても居心地が良かった(市民参加者C・市内在住)。
 - ・半年前に狛江に越してきたばかりで居場所はまだ探しているところ(市民参加者D・市内在住)
 - ・多摩川の五本松のあたりが居場所(WGメンバーA・市内在勤)
 - ・多摩川に朝ウォーキングに行くのととてもきれいで良いなと思っている。カフェを居場所にできたら良い(市民参加者E・市内在住)。
 - ・多摩川で釣りをするのが居場所になっている(市民参加者F・市内在住)。
 - ・市役所もしくは多摩川(WGメンバーB・市内在勤)。
 - ・生まれも育ちも狛江なので地域を歩いているとたくさんの人に声をかけていただける。生活の場が居場所になっている(市民参加者F・市内在住)。
- [意見交換]
- ・地域センターで子どもたちが遊んでいると「うるさい」とか「ゲームばかりしている」と怒られてしまい、子どもたちは公園に移動するというようなことがある。それでも地域センターには大人の目があり安心なのでそこで子どもたちがあそばせてもらえると良いなと思っている。
 - ・京王ストアの前の「the sacca cafe」はオシャレで憩いの場になっている。
 - ・岩戸児童センターの近くの教会が今年の1月からこども食堂を始めた。年配の方が門のところで子どもたちを迎え入れていてステキだなと思った。
 - ・中学校の空きスペースを借りてPTAで見守りをしながら中学生の放課後の居場所をつくらうとしている。家に居場所がなかったり、家では勉強に集中できないという

生徒さんに来てもらえたら良いと思っている。

- ・こまえ苑エリアは圧倒的にこどもの居場所がない。PTA 連合会としても児童館を増やしてほしいなどの要望をおこなっている。
- ・中高生の思春期の子どもたちは親や学校の先生から何かを言われると反抗したくなるが、児童館や地域の大人に声をかけられると嬉しいし喜んで帰って来るとことがある。そういう交流が生まれる場所がもう少し増えてほしい。
- ・中高生の居場所を開けていて、自分は帰宅部だけど部活動をしている友だちと部活動後の時間に会うのでそれまでのあいだ過ごせる場所がほしいとのニーズを聞いている。
- ・中学生の場合部活動が 16 時頃からだ、14 時に授業が終わった場合一度帰宅して再登校すると言われる日がある。そのときに自宅が遠い生徒などは隙間の時間を地域で安心して過ごせる場所があると良い。
- ・高齢者もエリア内で過ごせる場所は限られていて、バスに乗れる方は狛江駅前に出て喫茶店やファストフード店で時間を潰す方も多い。移動手段の限られている人は行き場所が少ない。以前は共生の家や地域センターで会食会がおこなわれるなどしていたが、コロナ禍以降は中止されている。
- ・学習支援で関わっている子どもたちが多摩川で出会った犬を散歩中の年配の男性に駆け寄って行って、普段から屋外での交流があったことに気づかされた。子どもたちも年配の方を見ているし、年配の方も子どもたちを見守ってくれていることがすごいなと思った。川沿いがそうした交流の場になっているのかもしれない。
- ・駄菓子屋のおじさんが子どもたちの登下校を見守ってくれている。親としても安心感がある。
- ・コンビニが子どもたちの居場所になっている面もある。コンビニのオーナーさんが子どもたちを見守ってくれたりもしている。昔は駄菓子屋や文房具屋が担ってくれた役割を現代で担ってくれている。

2. 地域の居場所を広げるために（こまえ苑エリア）

- ・PTA で小学校の見守りサポーターの仕組みをつくろうとしている。見守りマップと腕章をつくって地域の高齢者にお配りし、高齢者にも一歩玄関先に出て子どもたちを見守ってもらうイメージ。いまの子どもたちは知らない大人に声をかけられたら返事してはいけないと言われているが、腕章をしている人にはお互いに安心して話してもらえるようにとの思いもある。子どもたちが高齢者のことを気に掛けるきっかけにもなるかもしれない。
- ・高齢の方で特技を持っているが披露する機会がないという声を聞く。高齢者が技能を発揮したり子どもにおしえるなどの機会が世代間交流のきっかけになることもあるかもしれない。
- ・世代間の交流が自然と生まれる居場所づくりをしてみたいとの思いはあるが、まず市内でどのような施設をそうした目的で借りることができ、どう場を開いていけば良いかという情報や仕組みがわかりやすくまとまっていると良い。

- ・一見すると健常者だが、実は発達障がいなどの生きづらさを抱えている人の居場所がほしいという相談を受けたことがある。似たような経験を持つ人同士で集まりたいというニーズはある。多世代の誰でも集えるオープンな場と同時に、当事者が安心して集えるクローズドな場も必要。
- ・生産緑地の一角を活用して屋外の居場所づくりをしたいと考えている。世田谷区では区民と自治体の協働事業で既にそうした取り組みをおこなっている。活用されていない生産緑地を狛江市でも地域住民の交流の場のひとつとして生かすことができるとおもしろいのではないか。さらにそこにコンポスの活動など世代に関わらず共通して取り組める活動があると人が集うきっかけになる。

6 参加者アンケート（おとなの部）：回答数 6件

6-1. 参加者の年代

20代：1人、30代：4人、40代：1人

6-2. 参加者の居住/勤務地域

岩戸南：2人、岩戸北：3人、駒井町：1人

6-3. 狛江に「まちの縁側」と呼べる小さな居場所を増やすためのアイデア

- ・まずは興味のある人たちとつながりをつくるため、話をする機会を設定するのが大切かなと思います。どんな場が狛江にあると嬉しいか、意見をいろんな人から聞いてみたいです。
- ・声などで苦情があると聞いたことがあるので、場所の他に周辺の方の理解が必要だと思いました。
- ・農家さんや学校と連携する。
- ・毎月、もしくは毎週同じ場所でマルシェなどをやると、顔見知りも増えてそこに行くと安心してワクワク出来るような場所。狛江市内の野菜を売ったり、子どもたちが自由に考えたお店を出したり。自由な空間、アートな空間など。
- ・小学校のときの「保健室」や、町の「掲示板」のように、何か困ったな、相談したいなというときに、そこに行けば情報が得られるとか、相談できる人がいる、というような場所があればよいのではと思います。ちょっとしたお菓子やお茶があってみんなでおしゃべりできたら尚良いと思います。ビルの中の空きスペースや、図書館、公園のちょっとした場所にベンチがあるだけでも違うのでは、と思います。
- ・「誰か」はずっと居られないですが、バス停などもイスを置いたり、少ししかけは必要かもですが、短時間でも居場所っぽくなるとおもしろいかなと思います。あとは日中空いている駐車場なども、少し休憩所を兼ねて活用できると良いかなと思います。

6-4. 感想（自由記述）

- ・とても勉強になりました。多方面からの皆さんの発言に沢山の刺激を頂きました。

- ・とても楽しかったです。このようなある種の共通のテーマを持った人たちと会話をする時間はとても楽しいことだと感じました。話ができる場は大事だと思ったので、またぜひ参加したいです。自分が知らないだけで、同じような志を持った人は近くにいるのだなあ、と発見でした。
- ・若者に限らず、地域の居場所として子どもから大人まで必要なことが、参加したことで感じられました。
- ・子ども（特に小～高校生）の居場所のニーズや立ち位置など、なかなかお聞きすることができない事だったので、本当に学びになりました。高齢者層のニーズとどんなふうにからめてしかけを考えていくかの良い機会をありがとうございました。
- ・狛江に10年以上住んでいても、知らない場所、行ったことない場所だらけで、発見が多かったです。そもそも、私自身のご近所づきあいもそれほどなく狛江に知り合いも少なかったので、今回狛江で様々な活動をしている方々、団体を知ることができたことが有意義でした。
- ・ご近所に色々な活動をされている方たちがいるんだなと思い、新しい出会いにワクワクしました。そしてそれぞれの得意を生かした何かが出来れば良いなと思いました。皆地域を良くしたいという気持ちは同じなので。

以上